

前回WGでの主な御意見

(速記を元に事務局にて整理したもの)

【システムの運用・改善について】

- 現状は、HER-SYS という新しいシステムができたものの、現状としては、NESID から HER-SYS への移行段階にあるため、足下の状況としては、どちらも十分に活用できておらず、速やかに状況を改善し、国内や海外に向けて情報発信できるようにしていくべき。
- これまでに自治体等から寄せられた要望・意見とそれらへの対応状況について、整理して示して欲しい。
- HER-SYS の活用のためには、医療機関での入力を進めることが必要。初期の導入の事務負担（二段階認証への対応等）や入力の負担を勘案し、医療機関に入力するインセンティブが湧き、アクセシビリティの良い仕組みとすべき。
- 取組が進んでいる自治体の意見を聞きながら、運用の改善を図っていくことも必要ではないか。
- ウェブ上での個人情報管理など、セキュリティに対する不安の声を払拭するようにすべき。
- 検査数が膨大になってくると、全部入力するのは保健所の負担につながりかねないし、データの入力ミスが頻繁に発生するのではないかと、という心配もある。
関連して、入力項目については、迅速な登録が必要な項目、疫学調査を経た上で把握できる項目など、項目の種類・性質に応じて改めて整理することも必要ではないか。

【データの精度管理について】

- 発生届情報が中心の NESID と比べて、HER-SYS では疫学情報等も入力できる仕組み。これを効果的に活用するには、データの精度確保が重要。
- HER-SYS のデータの精度管理における地方衛生研究所（地方感染症情報センター）の役割が見えない。
- 従来の仕組み（NESID）では、医師による発生届が提出された時点での保健所による確認、保健所が入力した情報の地方衛生研究所での確認、その先の国立感染症研究所での確認という、三段階での確認を経ている。これも踏まえて、迅速性と精度確保を上手く両立

できるよう、HER-SYSでの精度管理の在り方を考えるべき。

- データ入力に係る現場の負担軽減のため、入力のための人員を国から派遣するといったことも一案として考えられるかもしれない。
- 当初入力したデータが、クリーニング（確認）を経て逐次更新され、情報の精度が高まることによって、結果的に見れば当初のデータと齟齬が生じることにはなるが、このようなデータの差異について、国民や自治体全体が許容することが重要であり、そのアナウンスをしっかりと行っていくべき。

【入力データの活用について】

- HER-SYSに正確に入力されたデータが、地域の感染症対策（患者数の抑制等）につながるような流れを作っていくことが重要。
- クラスタ対策等の地域の感染症対策においては、行動歴から共通項を見出したり、自由記載欄や欄外の記述から情報を得たりするといったアナログ的な作業も重要。
全てをシステムで代替することは困難ではないか。
- HER-SYSにおいて表やグラフの作成機能があると、複雑な作業をしなくてもよくなり、実務担当としては便利。
- 例えば、高齢者の孤発例が何例くらい出ると、施設での流行につながるか等といった内容を解析し、それをきちんと還元するなど、データを入力する者がデータを入れることに意味を感じられるシステムにしていくことが必要。